

日本史(29)「地方政治の展開と武士③～地方の反乱と武士の成長／源氏の進出」

○今回のポイント

地方武士団の成長は彼らを率いる「武士の棟梁」を出現させる。

11世紀前半には摂関家に接近して清和源氏が台頭し、東国の武士団をまとめ、東北地方の戦乱で活躍した。

(1)武士の出現

■9世紀末～10世紀にかけて 地方政治が大きく変化

- ・勢力を維持・拡大するため、地方豪族・有力農民の武装 ⇒ 紛争発生
- ・政府、諸国の盗賊・叛徒を平定するために[1. 押領使 ・ 追捕使]を派遣。

■中・下級貴族の土着化

- ・[2. 在庁官人]などになって現地に残り、有力な[3. 武士](兵・ツツエ)となる。

(2)武士の闘争

- ・武士たちは[4. 家子]等の一族や[5. 郎党](郎等・郎従)などを率いて、互いに闘争。国司にも反抗。

(3)武士団の成長

- ・武士たち ⇒ 連合体を作るようになる。

・辺境の地方：任期終了後もそのまま任地に残った国司の子孫 ⇒ 大きな[6. 武士団]に成長

□東国(関東地方)：良馬を産し、機動力のある武士団が成長。

(4)平将門の乱

①	将門の登場	[7. <u>下総</u>]を根拠地に桓武平氏の平将門が台頭する。
②	一族との内紛	935 将門、一族と私闘。叔父[8. <u>国香</u>]殺害。
③	国府占領	939 常陸国司に追われた[9. <u>藤原玄明</u>](ハルヤ)を保護 ⇒ 常陸国府を焼き、上野国府、下野国府を占領。
④	新皇と称する	939 上野国府で「10. <u>新皇</u> 」。関東諸国の大半支配。
⑤	反乱の鎮圧	94 押領使[11. <u>藤原秀郷</u>]と[12. <u>平貞盛</u>]

[19 承平・天慶の乱]

朝廷の軍事力低下が明らかとなり、地方武士の組織はいつそう強化された。

(5)藤原純友の乱

①	伊予掾純友	任期終わるが帰京せず。[13. <u>伊予国</u>]に土着。
②	海賊の棟梁	[14. <u>日振島</u>]を根拠地。瀬戸内海を荒らす
③	国府襲撃	939～ 反乱を起こす。・伊予国府奪取、東は[15. <u>淡路</u>]、西は[16. <u>大宰府</u>]を攻略。
④	反乱の鎮圧	追捕使[17. <u>小野好古</u>]、清和源氏[18. <u>源経基</u>]

(6)朝廷の武士利用

①朝廷・貴族たち 地方武士たちの実力を知る

⇒地方武士を[20. 侍]として奉仕・宮廷警備に使用・貴族の身边や都の市中警備

・事例[21. 滝口の武者]：10世紀以降宮中警備を行った武士。詰所が清涼殿東北の滝口にあった。

②源氏の活躍 摂津に土着していた清和源氏の子孫が摂関家への奉仕で台頭

- ・[22. 源満仲]…969年安和の変で源高明を密告、藤原家に接近。摂津多田荘に土着。多田源氏を称す。
- ・[23. 源頼光]…兼家・道長に仕えて諸国の受領を歴任。大江山の酒呑童子退治。摂津源氏の祖。
- ・[24. 源頼信]…道長に仕えて平忠常の乱を平定。源氏の東国進出の端緒。河内源氏。

③地方の状況

- ・地方武士を国司のもとに組織 ⇒ 追捕使や押領使に任命して治安維持

・[25. 館侍]…受領の家子・郎党からなる受領直属の武士たち。

・[26. 国侍]…地方武士を国衙の軍事力として組織したもの。

【源氏の進出】

(1) 武家の形成

① 開発領主の地方武士団化

- ・ 開発領主たち、私領の拡大と保護を求める
- ↓
- ・ 土着した貴族に従属して[27. 郎党]や在庁官人となる
- ↓
- ・ 地方[28. 武士団]形成

1019年[29. 刀伊の入寇]
沿海州の女真人(刀伊)が九州北部に来襲するも、太宰権帥[30. 藤原隆家]の指揮のもと九州の武士たちが撃退。**九州に武士団が形成されつつあったことの証明。**

② 武家

- ・ 地方武士団、中央貴族の血筋を引く清和源氏や桓武平氏を[29. 棟梁]として仰ぐ。
- ↓
- ・ 源平両氏は地方武士団を広く組織した[30. 武家](軍事貴族)を形成して、大きな勢力を築く。

(2) 源氏の東国進出

■ 1028年 [31. 平忠常の乱]

↓ 忠常は上総介、武蔵国押領使となるが、1028年に反乱を起こして房総を占拠。

■ [32. 源頼信]が鎮圧して、源氏は東国進出。関東の平氏は衰退。

(3) 奥羽の反乱

① [33. 前九年合戦] 1051~62

[34. 安倍頼時](陸奥の土豪)
[35. 藤原経清](頼時の娘婿)

国司に反抗

鎮圧

[36. 源頼義](父)
[37. 源義家](子)
↑ 援助
[38. 清原武則](出羽の豪族)

② 後三年合戦

[39. 清原氏]の内紛

- ① 真衡(母礼)VS 家衡・清衡
- ② 家衡 VS [40. 清衡]

清衡に加担

[41. 源義家]
(陸奥守)

③ 戦後の様子

A) 奥羽地方

- ・ 清衡の子孫([41. 奥州藤原氏])が陸奥の[42. 平泉]を拠点として、東北地方を支配。

B) 源氏の様子

- ・ 東国の武士団との主従関係を強め、[43. 武家の棟梁]としての地位を固める。